

# 認知症支援の輪を広げよう



高齢者福祉課 高齢者福祉係  
(庄原市地域包括支援センター)  
☎ 0824-73-1165

「新しいことが覚えられない」「すぐ前のことも忘れてしまう」など、記憶障害を伴う脳の病気「認知症」は、現在、約170万人いるといわれています。85歳以上では4人に1人と、誰もががかかるおそれのある病気です。

市内でも、10月末現在で介護認定を受けている3,882人のうち、2,162人の約6割弱の方に認知機能の低下があり、日常生活で何らかの支障があると判定されています。このため、認知症の方への支援が大きな課題となっています。

市は、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを目指し、①地域の理解や見守りがあるから大丈夫、②早期発見・早期対応ができるから大丈夫、③相談窓口があるから大丈夫、④暮らしを守る制度やサービスがあるから大丈夫、の4つの基本指針を柱に取り組みを進めています。

現在、柱の二つである地域の理解を深めようと、市と市内施設のキャラバン・メイトが各地域で「認知症サポーター養成講座」を開催しています。認知症サポーターは、何か特別なことをやる人ではなく、まず、認知症を正しく理解して、認知症の方や家族に対して温かい目

で見守る応援者です。

この講座は、職場・学校・自治会・老人クラブなど、どんな団体でもOKです。認知症サポーターになり、一緒に安心して暮らせる地域づくりを進めていきましょう。



**認知症サポーターの証・オレンジリング**  
認知症サポーター養成講座を受講された方には、認知症サポーターの証としてオレンジリングが配られます。

## キャラバン・メイト

キャラバン・メイトとは、認知症サポーター養成講座の講師役のことで、市内に16人います。

キャラバン・メイトの目!



磯川由実子さん

## 認知症の理解を深めよう

キャラバンメイトの活動を通して、『認知症を正しく理解することは、地域での生活を支える器をつくること』と呼びかけています。

実際に認知症の方を介護するなかで、認知症から起こる問題行動に悩んでおられる方も多いと思います。そこで知っておいてもらいたいのは、『認知症は病気であるということ』です。そのため『認知症の方の生活を変えよう』とすることは困難なことなのです。有効的なことは、家族や関係する周りの人が、言葉づかいや態度を柔らかくする工夫を取り入れることです。

歩き回りや、排泄の失敗など、行動面での障害が起きてくると、ついつい叱るような口調になったり、家族を試しているのではないかと考えたりするものです。しかし、プライドを傷つけるような表現やストレスをかけることは、関係や状態の悪化につながってしまいます。自身と置き換えて、コミュニケーションをとることが基本なのです。

認知症の方を対象にしたデイサービスの利用者さんの中でも、家族や民生委員さん、近隣の方も含めて見守りの態勢を整えることで、驚くほど穏やかになられた方もいました。

地域啓発の活動を続けながら、認知症の理解が少しずつ進んできていること、そのことが地域での支えにつながってきていることを感じています。周囲のさりげない見守りがあれば、住み慣れた地域での暮らしが続いていきます。だからこそ、この活動を続けていくことの大切さも実感しています。

